

在家勤行法則

特60

772

016949-000-0

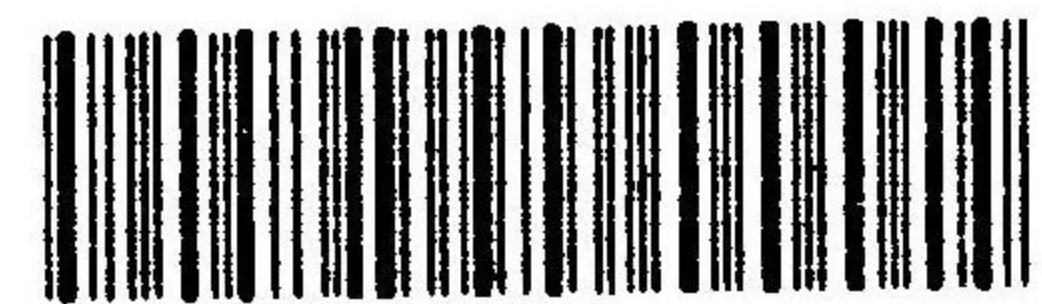
特60-772

在家勤行法則

中村 十郎

M16. 12

ABE-0189



館書圖京東

一	一	三	和
冊	八	三	書
			門
			類

63189 叔昏



在家勤行法則

先懺悔文

一反

我昔所造諸惡業

皆由無始貪瞋癡

かみ
ゆ
む
え
ま
ち

後身語意之所生

一切我今皆懺悔

次三歸 三反

弟子某甲 盡未來際

歸依佛 歸依法

歸依僧

次三竟 三反

弟子某甲 盡未來際

歸依佛竟 きえ ぶつ しまり

歸依法竟 きえ ぶつ しまり

歸依僧竟 きえ ぞう しまり

次十善戒 よき じゆ じゆ 三五

弟子某甲 でし かのう かのう

盡未來際 じん みるい さい

不殺生 ふ ころす じゆ

不偷盜 ふ ちゆう とう

不邪淫 ふ じゃ ын

不妄語 ふ まうご

不綺語 ふ きご

不惡口 ふ あくく

不兩舌 ふ りゆう せう

不慳貪 ふ けん こん

牙山示十

次高祖寶号 七反

南無大師遍照金剛

但一興教大師等信仰祖師の
寶号ハ随意加唱する事

次和讚 真言安心和讚
光明真言和讚

但一經陀羅尼及ハ大師和讚等
随意加唱する事

次回向 一反

願以此功德 普及於一切

我が等ら與よ衆も生ず 皆みな共に成ず佛ぶつ道どう

在家勤行法則 畢

真言安心和讚

歸き命いのち頂ちやう禮らい大だい日にち尊そん

八はち葉えふ四し重じゆう乃の圓えん壇だんは

一いち切き如に來らのの秘ひ要ようににて

よ
一
し
ん
ち
ん
と

衆生心地の曼荼羅なり
十方淨土乃諸聖衆ハ
大日普門の萬徳を
開きて示せし尊なれば

密嚴國土の外なり
青靄阿闍梨乃教誡

菩提を得るハ易けしと
真言秘密の達を

得えがんまなりと濱ぬふ
二ふ佛ぶつ出い世せに中間かんに
果くわい報ほうつくるまく生れど
いうたる宿しゆく世せの種因いんにて

解げ脱だつの時を得しり先
五ご濁だく惡あく世せに此ごらも
上じやう根こん勝しょう慧えの者ありて
如に説しやくに修行じやうぎやうする時ときに

正像末のへごとなく

一念一時一生に

三密加持の不思議に

無盡の功德圓滿

即身成佛せむなり

下根劣慧のともなきを

変定諦信了るるが

一度神呪と唱ふも

無明むみやうと除のぞくと執とめぬ

一密いちみつおとししはあともなく

増上ぞうじやう縁えんの力ちからに

三密さんみつ具足ぐそくの時ときより

終はつにハ佛果ぶつぐわと證あかしすべし

過と去こに造つくり報むくみに

盲聾もうそう喑啞あんあの輩たぐひなり

生うれて法門ほふもんさくち

生うれて法門ほふもんさくち

唱 少もあらず身ハ
諸佛の慈悲ヲ漏ぬべし
了ふ衆生を救ふにハ
他力の方便勝れり

真言陀羅尼に志くハ
中にも光明真言ハ
諸佛菩薩の總呪にて
一字に千理を含む也

無邊の功徳備は
信じて唱ふは
口稱の功力を因とて
往生浄土と一筋なり

安心決定致すべし

南無大師遍照尊

南無大師遍照尊

南無大師遍照尊

光明真言和讚

歸命頂禮大灌頂

光明真言功德力

諸佛菩薩の光明を

二十三字に藏めり

この一字を唱ふれば

三世の佛にまじりて

香華燈明飯食を

借養の功德具ハ
カヤと唱ルハ
諸佛諸菩薩
二世の求願を得
めて

衆生も救
けられ
手ヲヤと唱
ルハ
唱ル我等
其
大日如来
御身

説法一のよ安たあり

可成子乃大印ハ

生佛不二と印可して

一切衆生をこごとく

善授の道にぞ入れぬ

人命の寶珠の利益にハ

此世をうけて未來まで

福壽意の如くは

火安樂の身とぞなり
可成唱ふる妙の人
いある衆も消滅
華の臺に招くれ
心の蓮を開くなり
不可唱ふる光明なり
無明變じて明となり
數多の我等と攝取

有縁の浄土に安きあふ

不考印を唱ふれが

萬の願望成就して

佛も我等も隔なき

神通自在の身を得て

亦字を唱ふる功力にハ

衆障深きをれくが

造り地獄も破られ

十

忽ち浄土と成りぬべし
亡者の為に呪を誦す
一 土砂をバ加持し四向せ
極重惡のときをぐさす

十

速得解脱と説きぬ
真言醍醐の妙教は
餘教超過の御法にて
無違の功德具せり

既くともいふべき書なり

南無大師遍照尊

南無大師遍照尊

南無大師遍照尊

真言宗法務所藏版

明治十六年七月六日翻刻御届

同年三月

刻成

翻刻人

中村十郎

福岡縣 福岡區西職人町

筑前福岡橋口町

奈賣書林 古賀 鳩文堂

